

病院概要

診療日：月～金

休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）

【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので御承知下さい。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめ、お電話（06-6879-2848）のうえ、お越しください。

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111

（時間外）06-6879-2848

入院患者様へのご面会時間は、12時から19時となっております。

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

病院へのアクセス（歯学部附属病院にお車でお越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。なお、平日夜10時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越しください）

<http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/jpn/access/index.html>



お知らせ

**看護師
募集中！**

-お問合せ-

歯学研究科
総務課人事

06-6879-2834

まで

NEWS LETTER

本号のテーマ：「総入れ歯でも「かみやすい義歯」ができると聞いたのですが？」

この News Letter は、毎号お口に関する情報を提供させていただきます。みなさまのお口の健康に役立ててください。なお、ニュースに対するご質問・ご意見は担当歯科医師・看護師・職員へお尋ねください。



大阪大学歯学部附属病院では医療安全の確保に様々な取り組みをしています。その中にはおくすりに関することも含まれます。当院で治療を受けられる患者さまの中には、他の医療機関で何らかの治療を受けておられる方が多くおられます。いずれの医療機関でもそうであるように問診の際には、「アレルギーはありますか？」「飲んでおられるお薬はございますか？」「おくすりの副作用を経験されたことはありますか？」などとお聞きしています。直接歯科治療には関係ないと考えられるかもしれませんが、安全に歯科治療を受ける上で、非常に重要な情報です。歯科治療の際には、いろいろなおくすりを使用します。麻酔薬、鎮痛薬、抗菌薬、うがい薬などが代表的なものです。いかなる薬でもアレルギーをお持ちの方がおられる可能性があります。これは事前の検査でわかるのではなく、患者さまへの問診がアレルギー反応を予防する上で最も有効だと言われています。また、おくすりには相互作用（のみあわせ）の報告されているものがあります。最近では新しいおくすりも発売されていますので、お飲みになっているおくすりの情報はぜひ担当に伝えて下さい。歯科治療に影響のある場合もありますが、他の医療機関での治療に影響の出る場合もあります。お薬手帳をお持ちの方はぜひお持ちになり提示して下さい。これらの情報についての貴重な情報源となります。

安全に安心して歯科治療を受けて頂くためにも、ご理解とご協力をお願いいたします。

病院長補佐（SD 担当）薬剤部長 上田幹子

お口の相談コーナー：

「総入れ歯でも「かみやすい義歯」ができると聞いたのですが？」

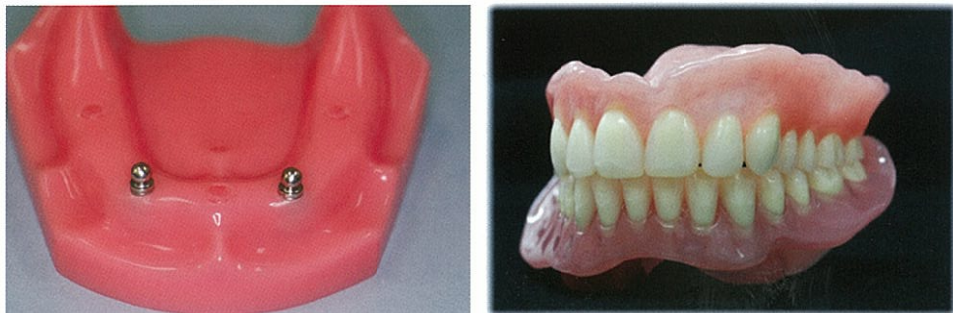
総義歯の方が良く言われることには、食事中あるいは話をしている間に義歯が浮きあがってしまうので困ることがあります。咀嚼補綴科では総入れ歯を専門としていますので、患者さまのご希望に応じられるように考えていますが、顎の骨がやせておられる方にもできるミニインプラント（通常よりも細いチタン製の人工歯根）を用いた義歯（インプラントオーバーデンチャーといいます）とインプラントを用いない場合も、はずれにくい義歯（Biofunctional Prosthetic System:BPS）を利用することができます。

ミニインプラントは主に下あごの前方に2本あるいは3本のインプラントを埋め込み、この上に義歯をのせて利用しますが、この場合義歯とインプラントは磁石などの特殊な装置を組み込むことになります。残念ながら、歯の無い部位にある程度顎の骨の高さや幅がないと、この方法は利用できません。

BPS義歯は、一見これまでの総入れ歯とあまり変わらないように見えますが、BPS義歯はこれまでの義歯の作り方とは異なり、ご自身のお口や顎の動きをもとにした型どりや、かみ合わせの位置決めをすることになります。よりぴったりしていて、噛みやすく、はずれにくい義歯にすることができます。

その結果これらのいずれの方法によっても、生活の質、特に食生活の質（QOL）の改善がかなり期待できます。

（咀嚼補綴科 科長 前田芳信）



お口のマメ知識：「歯がしみる — 「知覚過敏」 とは」

急に冷たい水がしみたり、歯ブラシの毛先が当たっただけでしみるような痛みが出てきた場合、「知覚過敏」になっている可能性があります。

知覚過敏による痛みの大きな特徴は、「一時的に歯がしみる」ことで、虫歯による痛みの場合、症状が持続的である場合が多いです。

歯がしみるメカニズムは次のように考えられています。下に歯の構造図を示しますが、「象牙質」と呼ばれる部分が露出することによって起こります。健康な歯の表面は「エナメル質」で覆われていますが、不適切なブラッシングや歯ぎしりなどによってエナメル質が剥がれてしまい、その下にある象牙質が露出したり、あるいは歯周病によって歯ぐきがやせて象牙質が露出することがあります。象牙質には象牙細管という小さい穴が多数空いていて、この小さな管を通して神経（歯髄）に刺激が加わることによって歯がしみるような痛みを感じます。

治療法は、基本的にこの象牙細管を埋める処置になり、自宅で行うのであれば、知覚過敏用歯磨き粉の使用、歯科医院での治療では、知覚過敏用の薬の塗布、レジンという樹脂によるコーティング材の塗布、あるいはレーザー照射を行うこともあります。

（保存科 外来医長 薮根敏晃）

